

一九六九年八月二十五日  
発行



第52卷 第5号

史学・地理学・考古学

五世紀の日本と朝鮮……………坂元義種 (1)

——中国南朝の冊封と関連して——

殞の基礎的考察……………和田萃 (32)

十七世紀後半の北インドにおける

農民収奪の一面……………近藤治 (91)

——アウラングゼーブ帝の二勅令を手懸りにして——

批判と反省

古代史(オリエント・ギリシア史)研究の争点……………中原与茂九郎 (119)

——岩波講座『世界歴史』古代I  
(オリエント・地中海世界)の書評に寄せて——

書評

Theodore K. Rabb; Enterprise & Empire……………浅田実 (139)

紹介

---

史学研究会

京都大学文学部内

墓の南道を打破しているので、二二七号墓の方が晚く作られたことを物語っている。この墓も龍山文化の堆積層を切って営まれている。

墓坑が方形で、それに四墓道のついた型式であるのは他の大墓と同じである。南北径一八・二四メートル、東西径一八・一〇メートル、深一三・五メートル。ただ、各墓道が二部に分れ、墓坑に近い部分が幅広くなっている点が、他の大墓とことなる。最も長い南道は、坂道で、墓坑の底面まで達しているが、他の三道は幅の狭い部分だけが階段になっており、とくに最も短かい西道は、その外端が北に折れている。

この墓も墓坑の中心部は完全に荒らされていたが、残存の夯土内にも、殉葬の埋葬は全くみつけることができなかった。遺存していた唯一の遺構は、西墓道の狭い部分の床に残っていた石磬と太鼓とそれらを架ける懸台などである。木質部はほとんど腐朽し、貝や石を象嵌した飾りの部分が残ったまま残っていた。とくに太鼓は木質の桶の両端に鱗皮を張ったもので、太鼓の実物として最初の発見例である。

以上が四大墓の内容であるが、各墓とも

盗掘に遭ったとはいえ、かなりの出土品があった。報告書は、これらの出土品について些細な断片に至るまで、すべてを写真と図面によって載せているのはありがたい。一つの遺跡に関する資料を全部提供するという態度を堅持している。

その反面、遺跡の年代観はいうまでもなし、器物の用法などの考証記述がほとんどない点、読者にとっても足りなさを感ぜしめるが、これはまた冊を改めて考証篇が出されるのかもしれないし、今は提供された資料の厩大きに一驚するばかりである。

(一〇〇)一号墓 B 4判変型本文三六〇頁・図版二七七頁・一九六二刊 一〇〇二号墓 B 4判変型本文二一六頁・図版八七 一九六五刊 一〇〇三号墓 B 4判変型本文二四七頁・図版一一四 一九六七刊 一二七号墓 B 4判変型本文二二七頁・図版二〇三 一九六八刊)

(樋口隆康)

一九六九年八月二日印刷  
一九六九年九月一日発行 定価三〇〇円

史 林 (第五二巻第五号)

発行人

京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部内

史 学 研 究 会

理事長 井 上 智 勇  
振替京都五一五五番

印刷所

京都市下京区七条御所ノ内中町五〇  
中村印刷株式会社

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. LII, No. 5

Sept., 1969

---

### CONTENTS

#### Articles :

Korea and Japan in the 5th Century ..... *Y. Sakamoto* ( 1 )

A Fundamental Study of *Mogari* 眞狩 ..... *A. Wada* ( 32 )

The Conditions of the Peasants under Aurangzib  
as Seen through his Two Ordinances ..... *O. Kondo* ( 91 )

#### Review and Criticism :

Some Disputed Points in Ancient History..... *Y. Nakahara*  
*Y. Shimamura* (119)

#### Book Reviews

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan